

ツマグロキチョウはキタキチョウと良く似た小型のキチョウですが、全国分布はせまくて太平洋側では福島県、日本海側では福井県が北限、南は屋久島、種子島までが定着域で、沖縄などには食草はあるけれども迷チョウだとされています。私は沖縄の名護市伊豆味で秋型1個体を捕獲記録しています。夏型と秋型と二つの季節型があります。残念ながら松波町近辺ではみたことがなく、私は2008年10月に初めて西畑の花畑でこのチョウに出会えました。まず、静止している



状態を確実にカメラ撮影記録し、外観だけからすぐには♂♀の区別が難しいためネットインしたら♂だったので記録標本用に確保しました。その標本を図示していますが黄色が鮮やかなきれいなチョウです。もちろん♀だったらそっと

しておいたのですが。ところで、西畑地区にはこのチョウの幼虫が食べるカワラケツメイという植物はどこにも見当たりません。いったい、どこからやってきたのか、前に紹介したキタテハ同様にまったく謎の風来坊的飛来なのです。図鑑類をよく調べると、どうやら秋に発生する個体だけは発生地からかなり遠くまで飛散する傾向があるようで、このときの個体もどこか遠くから花畑をみつけてやってきたと考えられます。申し訳ないと思いつつも貴重な記録標本として残すために犠牲となってもらったのですが、嬉しいことにその数日後にも花畑にきてくれる新たな♂をみる事ができました。接近しすぎて驚いたチョウは西畑町内方面へと飛び去って行方がわからなくなり、その後何日か通いつめても再びきてくれませんでした。どこへ行ったのでしょうか。その後、2015年9月にもテニスコート傍の花にやってきましたが発生地はいぜんとしてわかりません。



ツマグロキチョウは、本来、絶滅危惧Ⅱ種に指定されるはずのない普通種でしたが、その食草であるカワラケツメイという植物の自然生育する環境が、宅地造成や河川護岸工事による川原の消滅など、人為的開発によって激変しているのがその大きな要因で次第に数を減らしているチョウです。山口市徳地ではカワラケツメイの実を煎じた「マメ茶」(私は実際に光市出身の友人に飲ませてもらったことがあります)がコクがあってとても旨い)を嗜む風習があって、その目的でカワラケツメイが栽培されていてツマグロキチョウの安定発生地ともなっているようですが、幸いにも、そこではとくじ健康茶企業組合と山口むしの会との協力によるツマグロキチョウの保全気運が高まっていると聞きますがうれしいことです。

なお、このチョウに異常型が出ることはめったにないのですが、翅表の黒い鱗粉がほとんど欠落した変異個体を東京都内微生物化学研究所の裏庭草地で捕獲しています。この個体もどこか他



Sep. 20, 1974 東京都品川区上大崎

所で発生した風来坊です。2009年の正月に和歌山太地町の蝶友にメールで依頼したら、快くカワラケツメイの種をたくさん送ってくれ、西畑花畑に種を蒔いて育てましたがツマグロキチョウが飛来産卵することはなく、多くのチョウが飛び遊んだこの花畑一帯が2012年に始まった自動車道路設置工事のために完璧に破壊されたのが悔しくてなりません。